

今号は記念の100号になります。毎週末に発行してほぼ2年近くになります。最初は続くかなと不安でしたが、読者の皆様からの温かな励ましと感想に励まされています。読者投稿をいただき双方向の新聞になり、この新聞のご縁でたくさんの方と知り合いました。粕谷会長の観察日記は自然への関心を深め、新たな視点を示唆してくださっています。

紅葉台



新聞

第100号
2023年
10月21日
発行人：関谷 孝

戦争を伝える 浅川地下壕跡

中田 均さん



皆さんは、紅葉台の近くに戦争遺跡「*浅川地下壕跡（地下壕に略）」が残っているのをご存知でしょうか。場所は、高乗寺入り口の近くに今でも地下壕の入り口があります。毎年、毎月地下壕見学会を行っているのが中田均さんです。

名刺には「浅川地下壕の保存をすすめる会」副会長とあります。始めるきっかけは、1991年3月今から30年ほど前、都高教（都立高校の教職員組合）主催でこの地下壕の見学会があったことからです。当時は館高校の社会科の教員でした。フィールドワーククラブで生徒と一緒に地下壕イの4.8kmの中を半年かけて実測しました。網目のように並んだ距離がおよそ10km（地下壕イ口八3ヶ所の合計）にもなります。大変価値のある記録で今でも資料を見ると全貌がよくわかります。なにせ地下壕は真っ暗で湿気が多く中に入るだけでも勇気がいります。その時『これが使命だ！』と感じたそうです。現在68歳ですがとても元気で澁刺と話す姿に驚かされます。全国教研集会でも発表し退職後も意欲的に戦争の痕跡を巡る旅に飛び歩いています。毎年八王子の平和展にも参加しています。



1997年「浅川地下壕の保存をすすめる会」を仲間と設立し、見学会を約15年にわたって行っています。上記のHPを見ていただくと、毎月の見学会の日程が分かります。今では近隣の小学校に見学会のチラシを配り親子見学会を行っています。これからは若い人たちに戦争のことを伝えていきたいと話していました。戦争の記憶が薄れていく中で戦争の悲惨さを後世に伝えるため、行政にも整備し保存と公開・見学を行ってほしいと強く思っています。そのためにも地質学者が調査し、市が地下壕の安全対策を行い、八王子市の新たな見学地としてアピールし後世に伝えたいと願っています。



（例えば、長野市松代像山地下壕、横須賀市の貝山地下壕、千葉館山市の赤山地下壕跡等は行政が保存と公開を行っています。）

そんな中で昨年大きな動きがありました。八王子市の国立高専が鈴木先生（考古学専門）と冨沢先生のゼミの生徒と協力して地下壕の3D（立体視）に取り組みました。ニュースやマスコミにも取り上げられ話題になりました。現在では、入り口周辺の3Dが完成しています。このような地域課題を取り上げて「社会実装教育フォーラム」

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

に発表したところ、2つの賞に輝きました。今でも高専のOGや現役生が研究を続けています。頼もしいことです！

8月26日中田さんの見学会に高専の生徒も参加していました。3Dにすることで居ながらにして地下壕の中を探検することが出来ます。地域の人たちや学校で教材として見るのが出来るので授業に役立つのではと期待します。長年の中田さんの活動が報われます。



中田さんは、沖縄戦にも大きな関心をもっています。日本各地に残る戦跡を訪ね後世に伝えることの大切さを実感しています。また、八王子の市民活動パルマでの月1回の学習会を行っています。実際に撮ってきた写真や、歌を交えての学習会を開催しています。今年は日テレで「浅川地下壕物語 1991年制作」や8月16日テレビ朝日で「現代に残る戦跡・浅川地下壕」等番組に取り上げられています。それらを教材にして小学校での出前授業も行っています。話を聞いていると中田さんの意欲と行動力に驚かされます。「私のライフワークです」と言っていたのが印象的でした。

*注釈

浅川地下壕は、第2次世界大戦末期に陸軍浅川倉庫として掘られた日本最大級規模の地下防空壕です。もともとは陸軍の地下倉庫としてつくられました。武蔵野市の「中島飛行機武蔵製作所浅川工場」の疎開先として昭和20年の敗戦まで機能していた地下工場跡地です。しかし、湿気が多く劣悪な環境だったために工員の体調不良なども重なり、飛行機のエンジンづくりにはとても生産性が悪く、たった10台しか完成しなかったと言われていました。また、地下壕には東京大学地震研究所の地震計が設置してあります。負の歴史として1944年9月の建設から1945年8月の終戦まで、約2000人も朝鮮人労働者が現場近くに宿泊し働いていました。多くの学徒も動員もされ4000人もの人が1日8時間交代で働いていました。掘削には削岩機と大量のダイナマイトが使用されていました。その後、1999年テレビ取材中に大量の火薬が約3トン発見されました。そのエリアは自衛隊が処理をするので天井が頑丈な鉄柱になっています。（文責 関谷）

見学者の感想 前田早百合さん 日中の気温が34℃を超える蒸し暑い日に地下壕は16℃と涼しく快適とさえ思いましたが、換気設備は勿論あるはずもななかでの作業は過酷な環境だったと感じました。そして、そのためにだけに集められた朝鮮の人々に対して胸が詰まる思いになりました。

今号は記念の100号になります。毎週末に発行してほぼ2年近くになります。最初は続くかなと不安でしたが、読者の皆様からの温かな励ましと感想に励まされています。読者投稿をいただき双方向の新聞になり、この新聞のご縁でたくさんの方と知り合いました。粕谷会長の観察日記は自然への関心を深め、新たな視点を示唆してくださっています。

見学者の感想 本間伴子さん 八王子の浅川に中島飛行機の地下壕があるというお話は以前より存じ上げており、いつかお尋ねしたいと思っておりました。想像しておりましたのは富岡製糸場の様な形状の物でしたが1946年に米国に撤去されており、中田さんに見せて頂いた地下壕地図の様に複雑な地下壕が朝鮮より朝鮮人を呼び労働力とし浅川小学校の前の飯場で日本人は1人だけとお伺いし驚きました。

戦争中若者が日本を守る為中島飛行機で学徒動員していた話は有名ですが...3トンもの(爆弾)ダイナマイトが隠されていた等貴重なお話をお聞き出来ました。千葉や群馬の大田の様に行政が戦争遺跡を後世に継承して行ける体制が出来るとよいです...ね...そして10台の完成したエンジンと地下壕への労力に関し次世代を担う人達へ啓蒙していける事を願っております。貴重なお時間をありがとうございました。

追記 「浅川地下壕の保存をすすめる会」HPで詳しい内容を見ることが出来ます。

興味を持たれた方は是非、上記のHPをご覧ください。

毎月の見学会が分かります。

申し込みをすることもできます。

また、これまでの記事を読むこともできます。

写真などもありますので八王子の戦争の跡をご覧いただけます。



紅葉台新聞100号を記念して

皆様に長らくご愛読いただき100号となりました。読者の皆様からご感想など頂くこともあり励みになっております。

改めてここでお礼を申し上げます。

ありがとうございます！！

これからも一層皆様にお役に立てる情報発信とともにためになる楽しい記事を掲載していきたいと思っております。

改めて、紅葉台新聞が誕生した経緯とこの新聞が目指すものについてお伝えします。

(途中から読まれた方も多いので・・・)

初めは、紅葉台に住む(一人暮らしの)高齢者は枝洋さんが、お連れ合いの方を認知症で11年間介護しました。お連れ合いの方が亡くなった後に、それまでの経験を生かして皆様に伝えたいとの思いで「介護ネットワーク新聞」との名称で始めました。

内容は主に介護や認知症に関する最新の記事です。是枝さんは以前のお仕事の関係もありたくさん読書をされる方で自宅に本がたくさんありました。

そんな時に、是枝さんが自宅を開放して「サロン」をしようとの話を聞きつけました。もともと地域での交流をしたいと思っていた私の考えとマッチしてサロンも始めました。

2018年地域サロンは年間計画を考え毎月楽しい企

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

画を考えました。初めての日は「餃子ピザ」をホットプレートで焼いて食べたのがつい昨日の事のように。

「春の草花・栗山の自然」「写真鑑賞」「折り紙教室」「四国お遍路物語」「健康体操」「介護保険・ケアマネ」「読書案内」等ゲストになる方を招いて、お茶とお菓子で楽しい時間を過ごしました。

そのうち一人暮らしの方が多くのお弁当を作って食事会もするようになりました。その続きで今でも一人暮らし高齢者の方にお弁当を作って届けています。(コロナ禍になってサロンは自然消滅しました)お弁当作りは5年ほどになります。

そのサロンと並行して「介護ネットワーク新聞」を発行しました。初めはA3サイズで表裏記事なので書く内容がたくさんありました。私も本を読んで勉強し記事を書きました。是枝さんは新聞づくりに大変熱心でした。当時93歳でしたが頭脳明晰でとても優しく寛容な方でした。お連れ合いの方を大変愛され、その半生を本に書くほどの愛妻家でした。2人で良く散歩をされ、地域でも評判のご夫婦でした。ご夫妻の半生記はとても素晴らしい内容で心揺さぶられる介護体験記でした。

私は、主に地域の問題を取材して書くようになりました。新聞は大変好評で、是枝さんが印刷機も買って自腹で発行していましたが、77号を最後に突然亡くなってしまいました。(2021年11月)

これまでご縁のあった方に大変親しまれ愛されていた是枝さんでしたので皆さんに惜しまれ樹木葬にみんなで参加しました。

その後、新聞は途絶えてしまうかと思いましたが、是枝さんの遺志を継ぎ、新聞づくりのご縁をいただいた不思議を感じ、細々と地域新聞を続けようと思い、始めたのが「紅葉台新聞」です。内容は地域情報が主で以前のように介護関係の新聞ではありませんが、今では「脳トレ」と自分の生きがいのようになっています。

モットーは、「深いことを楽しく、分かりやすく」

是枝さんの蔵書は「紅葉(もみじ)カフェ」に引き継がれ、地域の皆さんが本を借りて読むことが出来ます。

紅葉台では高齢者がたくさん住んでいます。私は自治会と共に高齢者が生き生きと安心して楽しく暮らせる街にしたいと活動をしています。

今は、自宅を開放して「憩いの場」にしています。時々お茶を飲みに来たり軽食を食べに来たりして楽しく語り合える場があるといいと思っています。

また、この秋からは拓殖大学の学生と交流する企画を考えています。若い人と高齢者が交流することも元気になっていいのではと思っています。

たくさんやりたいことがありますが、自分一人ではできません。是非一緒に考えて活動してくれる人を募集しています。これからも読者の皆様の感想や投稿を励みに読んでためになる新聞を創っていきたく思います。ご愛読に感謝です！！❤

